

薬物療法(上)

今月のポイント

内服薬は大きく分けて「インスリンの分泌を促す」「インスリンの分泌を抑える」二種類に分けられます。内服薬は大きく分けて「糖尿病の内服薬は副作用の低血糖に注意」「糖尿病の内服薬は臓器保護、合剤がトレンド」「日本でシェアが高いのは「DPP-4阻害剤」」です。

糖尿病の進行具合や合併症の有無に加え、発症からの期間、体型や年齢、家族の病歴などを考えます。薬をよく飲み忘れるとか、食事を1日2回しか取らないといった性格、ライフスタイルも踏まえ、最適な薬を患者さんと相談しながら決めます。1種類だけではなく十分で複数の薬を服用しなければいけない患者さんもあります。

一薬の種類は。

内服薬は大きく分けて

「インスリンの分泌を促す



▶12

インクレチニン 食事を取ると小腸から分泌されるホルモン。膵臓(すいぞう)に働き、血糖を下げるインスリンの分泌を促したり、血糖を上げるグルカゴンの分泌を抑えたりする。

天満 仁

県糖尿病専門医会代表

表の天満仁(49)に、薬物療法のポイントを聞いた。2回に分けて紹介する。

一薬物療法について聞かせてください。

食事療法や運動療法で十分な改善がみられない場合に行います。内服薬と注射があります。内服薬は種類が多いので患者さん一人一人に合った組み合わせが必要です。合併症を起こさず健康な人と変わらない生活を送れるよう最近は早期から薬物療法を始めます。

一どのように組み合わせを決めますか。

糖尿病の進行具合や合併症の有無に加え、発症からの期間、体型や年齢、家族の病歴などを考えます。薬をよく飲み忘れるとか、食事を1日2回しか取らない

を決めます。

副作用の低血糖注意

「薬」「インスリンの働きを改善する薬」「食後の高血糖を下げる薬」があります。糖尿病の薬は副作用として低血糖を起こしやすいことを知つておいてください。また、最も新しい薬としては「尿糖の排出を促す」働きを持つ「SGLT2阻害薬」があります。1日300錠ずつ糖が排出されるので減量効果があります。肥満の人が多い米国では人気があります。

一尿に糖が出ると重症のイメージがありますが、発想の転換ですね。SGLT2阻害薬には心不全を改善する働きもあります。最近は臓器を守る働きがある薬が多く開発されています。糖尿病は合併症が怖い病気なので理にかなっています。

一日歩数ですね。

複数の薬を一つに混ぜた「合剤」も今のトレンドです。細かい容量の調整が難しく、副作用が出た場合どう

日本で最もシェアが高いのは「DPP-4阻害剤」。インスリンの分泌を促すインクレチニンというホルモンがあり、それを分解する酵素がDPP-4です。その分解を抑え、血糖を下げる薬です。副作用が少ないのが特長です。

一他には。

「αグルコシダーゼ阻害薬」は「糖の分解と吸収を抑える」働きがあり、食後血糖の上昇を緩やかにします。食前の服用でおなかが張る副作用がありますが、

一低血糖はどう防げば。食事、運動、薬剤の決められた量と時間を守ることです。症状が表れた時はジユースや食事で糖分を取ること。薬剤によっては糖の吸収が遅れる場合があるので、携帯用ブドウ糖を持っておくことを勧めています。(聞き手・廣井和也)

薬物療法の効果

速やかにインスリン分泌を促進する
・速効型インスリン分泌改善薬

ブドウ糖の吸収を遅らせる
・α-グルコシダーゼ阻害薬

